

# 生徒一人ひとりが地域と学校の伝統をつないでいく



グラウンドの前を走るJR筑肥線の車両がいつもの風景にある系島市立福吉中学校。一・小一・中校区で、各学年1クラス、111名の生徒が通っています。重点目標の一つ「立礼」は、ただ挨拶をするのではなく「立ち止まって相手の顔を見て挨拶をする」「先手の挨拶を心掛ける」ことで、相手を大切に作る気持ちを育ててほしいという思いが込められています。毎朝、校長先生をはじめ、先生、生徒会役員が交代で校門に立ち、率先して挨拶をします。

福吉中学校では、地域の伝統文化の継承に力を入れており、総合的な学習の時間にそれを学ぶ授業を設けています。その一つに福井神楽(ふくいかぐら)チームがあります。このコースでは、その歴史や福井神楽保存会の役割について学習し、文化祭では舞と楽のメンバー構成で神楽の演目を披露します。舞のチームは、先輩が演じてきた神楽の映像をお手本にしたり、地元の福井神楽保存会の方々から足運びなどの所作を指導してもらったりしながら、練習に励みます。また、校区の歴史ある歌「吉井浜思

ひ出の歌」を学ぶチームもあります。これは平成10年当時の生徒たちが、埋もれていた地元の歌「吉井浜思ひ出の歌」を復活させたもので、この歌を受け継ぐことを目的としています。このように生徒たちは、地域の伝統を長年にわたり受け継いでいます。さらに、福祉チームは、創作ダンスを通して地元の福吉病院と交流を図るなど、地域の人たちとも積極的に関わっています。

一・小一・中校区を活かしたコミュニティ・スクールでは、福吉小学校の子どもたちと一緒に姉子の浜(あねごのはま)や福吉駅、福吉しおさい公園を清掃する小中合同ボランティアでの活動もします。さまざまな地域活動を通して、生徒たちは地域の一員としての自覚を深めるとともに郷土愛を育てています。



文化祭 福井神楽チーム



小中合同ボランティア